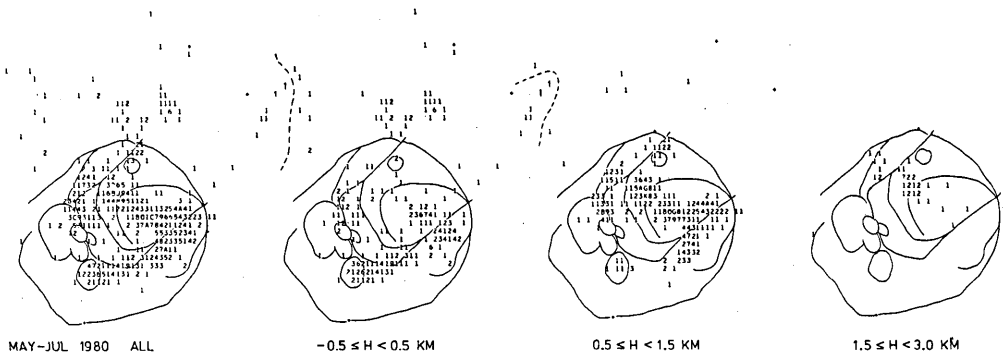


有珠山噴火後群発した地震の震央・震源分布 (1980年5月-7月)*

北海道大学理学部有珠火山観測所

既報¹⁾に続いて、有珠山の群発地震活動について報告する。今期間も地震活動は大局的にはゆるやかな減少を続けている。

1980年5~7月の深さ別震央分布を第1図に示す。震源分布の概観は前報の期間(1980年1~4月)と非常に良く似ている。火口原内の地震活動の中心は大有珠北部及び南部、北火口原と小有珠北部で、これらを合わせると全体の7割を占める。これらの地震群の震源はやや深く大部分が海面下0.5~1.5kmにある。おがり山及び銀沼火口周辺の地震群は海面下0.5kmより浅いものが大部分である。1.5km以上の深い地震は北火口原と新山北西麓に少数残っているだけである。火口原外では北側山麓に浅い地震の集中がみられる。その他、U字型断層線の東側延長部及び北西山麓にも少数の浅い地震が発生している。

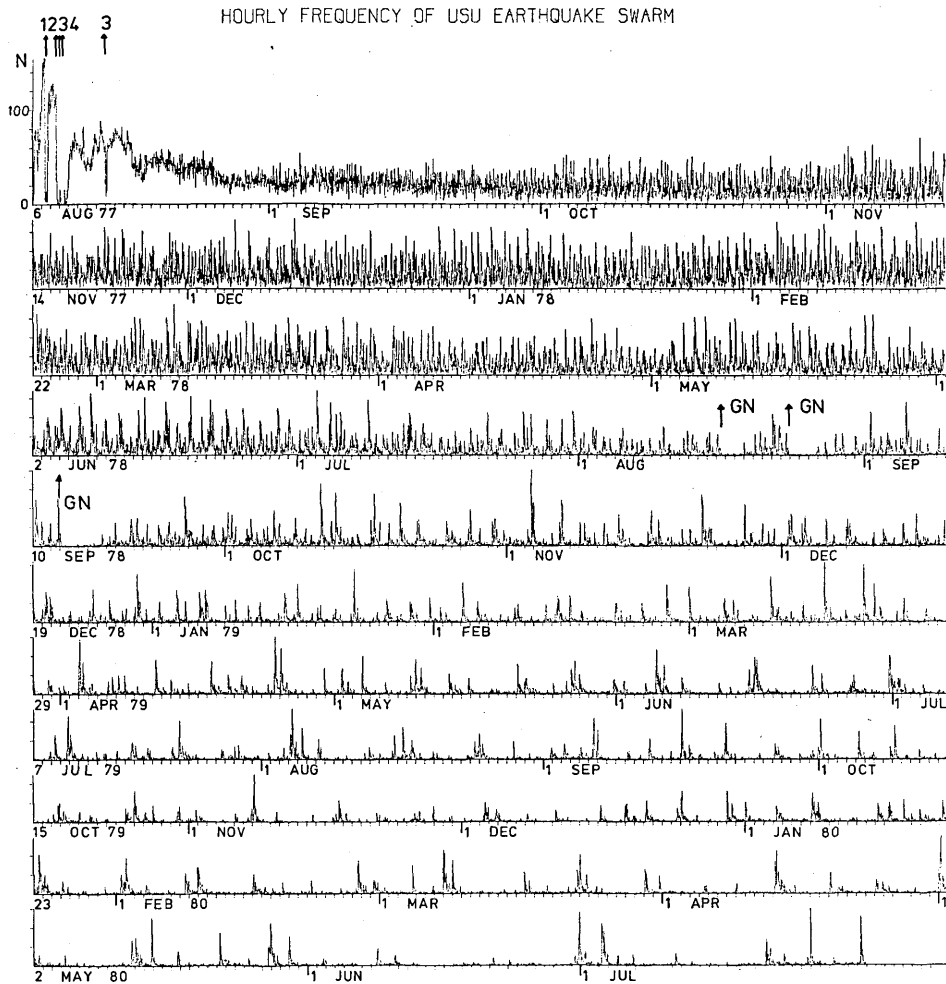


第1図 深さ別震央分布図(1980年5~7月)
数字は地震数を示す(A, B, C……は
10, 11, 12……に対応)

第2図に毎時間当りの地震発生回数の推移を示す。1978年11月までは気象庁A点及び壮瞥温泉における地震回数、1978年12月以降は壮瞥温泉有珠火山観測所における回数である。顕著なピークを中心とする群は残したまま次第に活動が低下し、群と群との時間間隔も長くなって来ているのが分かる。今期間中6月は特に活動が低いが、7月にはやや盛り返している。今後も地震活動は相対的な高低をくり返しながら減少していくものと思われる。

壮瞥温泉における平均日別地震回数は、銀沼火口活動直後の1978年11~12月に79.6回、以後1979年1~3月62.3回、4~7月54.9回、8~12月38.1回、1980年1~4月38.0回、今期間1980年5~7月35.3回である。

* Received Aug. 20, 1980



第2図 毎時間当りの地震発生回数の推移
 主要な噴火が矢印と火口名で示さ
 れている。

参 考 文 献

- 1) 北海道大学理学部：有珠山噴火後群発した地震の震央・震源分布，火山噴火予知連絡会報，11 (1978)，3-7，12 (1978)，1-5，13 (1978)，12-15，14 (1979)，1-5，15 (1979)，1-6，16 (1979)，1-3，17 (1980)，30-32，18 (1980)，22-24